平成5年度

北海道地域農業研究所事業経過報告

当研究所は、平成二年十二月設立以来三年四ヵ月が経過しました。この間会員各位の深いご理解と、関係機関始め各方面のご協力を得て、調査・研究事業の領域を広げることができました。更に各研究テーマ毎に道内外の研究者各位のボランティア的支援活動を受け、研究内容についても年を追って充実深化してこれたものと思料しております。

平成五年度における主要な研究事業経過について、以下のとおり報告いたします。

自主研究

（一）農地問題研究会

二ヵ年の研究テーマで取り組み、平成五年度は稲作地帯の調査研究を実施し、六年度は畑作、酪農地帯の調査研究に着手します。

ア、稲作地帯における農地動向現地調査（八月～九月・岩見沢、深川）実施。

イ、第一回定例研究会（十一月・「稲作地帯における農地基本問題」）実施。

ウ、第二回定例研究会（一月・「稲作経営の作付変動と農地問題」）実施。

（二）農業情報に関する研究

ア、全国農業協同組合中央会の奨励研究「地域農業振興（技術）センターの役割と機能強化に関する研究」に取り組みました。

イ、上記に係る、地域農業技術センターの実態アンケート調査と事例調査（北村、風連町、鵡川町、厚真町、興部町）を実施しました。

ウ、「農業の情報化戦略」研究会（三月・札幌市）実施。（詳細は別途記載）

共同研究

（一）美深町農業振興計画に係る地域診断（平成四年度より継続）―委託者　美深町農協―

（二）白糠町農協、農業振興計画に係る基礎調査（平成四年度より継続）―委託者　白糠町農協―

（三）追分町農業振興計画に係る基礎調査―委託者　追分町―

（四）生田原町農業振興計画に関する基礎調査―委託者　生田原町―

（五）卸売市場の価格形成と消費動向―委託者　コープさっぽろ

以上の調査研究を実施し、それぞれに報告を完了いたしました。

（六）知内町農業発展ビジョンの策定に係る基礎調査―委託者　知内町―

（七）静内町農業振興計画に係る基礎調査―委託者　静内町・静内町農協―

以上の二件については、二ヵ年継続事業として取り組み、平成六年度に最終報告をまとめる予定です。

提案研究

（一）鮮度保持を要する北海道農産物の低コスト物流システムの確立（平成四年度より継続）―北海道立中央農業試験場との共同研究―

ア、道産移出野菜の鮮度保持と物流コストの低減対策は、北海道における野菜生産の振興を図る上で重要課題となっています。現状の物流パターン別実態、コスト面の調査分析を実施しました。

イ、共同輸送方式など、低コスト保鮮物流に係る今後の方向をまとめました。

（二）道産野菜の競合産地情報シ

ステムの開発　―北海道立中央農業試験場との共同研究―

ア、NAPASS（全国農産物市況分析システム）を活用した、競合産地の動向を把握分析する手法を開発しました。

イ、この情報を利活用した、道産野菜の産地形成と販売戦略構築を探索しましたが、今後、農業団体の実務担当者を交えた研究会などで、実用化の検討を進めます。

（三）農家経済の再建に関する調査・分析　―北海道農業信用基金協会との共同研究―

ア、過大な負債を抱える酪農家の、負債固定化の原因や実態を調査分析し、三月中旬に中間報告をまとめました。

イ、平成六年度には、調査分析結果を踏まえて、経営改善、経済再建の対策方向を研究いたします。

受託研究

（一）「カジュアルフラワー」の需要拡大の見通しと本道における生産のありかたに関する研究　―委託者　北海道農政部―

ア、北海道大学農学部農業経済学科の研究者を中心とする、プロジェクトチームによって生産、流通、消費の全般について、調査研究を実施しました。

イ、消費者アンケート調査（九月・札幌市・対象サンプル数二百六十二人）生産者および産地関係者アンケート調査（七月・上川管内）実施

ウ、カジュアルフラワーに係る研究会を三回にわたり実施しました。

エ、調査研究のテーマは次の各章にまとめ、研究報告書として北海道に提出しました。

序　章　花きの調査研究に関する取り組みの概要

第一章　世界における花きの生産・流通・消費

第二章　日本における花きの生産

第三章　日本における花きの流通

第四章　花きの物流と情報システム

第五章　日本における花きの消費

第六章　カジュアルフラワーの将来と北海道における生産・流通システムの方向性（提言）

（二）農産物出荷・輸送高度化システム調査（平成四年度より継続）　―委託者　北海道開発協会―

ア、平成四年度の実態調査から課題として抽出された、「青果物の物流・鮮度保持体系の基本的方向」「道路・鉄道・港湾・空港などの輸送基盤整備」について、調査研究を実施しました。

イ、二カ年の調査研究結果については、有識者の提言も合わせ開発協会に報告し、今後の道産農産物の、輸送高度化システム構築の基礎資料として活用してもらうこととなっております。

（三）網走地域高収益農業確立についての調査業務　―委託者　北海道開発協会―

ア、同地域における加工野菜の現況と動向を把握し、加工形態別（野菜缶詰、冷凍野菜、漬物、乾燥野菜）の生産・流通の事例を調査しました。

イ、国際化の進むなかで、地場企業が原料仕入れや雇用を通じて、地域農業や地域社会といかに関わり合いをもってきたかを浮き彫りにし、委託者に報告しました。

診断事業

（一）農事組合法人の役割と課題　―委託者　千歳市・千歳市農協―

ア、農事組合法人が農地を保有し、共同経営を行っていくためのコンサルテーション事業を実施しています。

イ、法人構成農家の意向調査、分析結果に基づき、平成六年度に法人の経営計画を策定する予定となっています。

図書資料の発行

（一）会報「地域と農業」の発刊

ア、第九号（春季号）
特集＝高齢化対策と農村

イ、第十号（夏季号）
特集＝学校教育と農業

ウ、第十一号（秋季号）
特集＝農業・農村の変革を目指す女性像

エ、第十二号（冬期号）
特集＝農村文化をどう育てていくか

（二）地域農業研究年報（平成四年度）の発刊・平成五年五月

（三）地域農業研究叢書の発刊

ア、第十二号　北海道における農業雇用労働力の需給構造

イ、第十三号　白糠町農業の構造と展開方向

ウ、第十四号　フリーストール畜舎等の施設建設における法規制とその緩和による低コスト建設に関する調査

エ、第十五号　稲作限界地帯における農業展開と振興方向

オ、第十六号　地域農業振興（技術）センターの役割と機能強化に関する研究

（四）研究報告書の発刊

ア、潜熱利用冷温化システム開発調査報告書・平成六年三月

イ、「カジュアルフラワー」の需要拡大の見通しと本道における生産のあり方に関する研究報告書（要約版）・平成六年三月

なお、図書資料の会員に対する配付は、「会報」「研究年報」「研究叢書」を発刊の都度実施しました。「研究報告書」（限定発刊）については、委託者の了解を得られたものを関係者に配付しました。会員外の方々に対しては、有償頒布に応じておりますので、必要の場合は申し込み願います。

研修会の開催

テーマ＝「農業の情報化戦略」―地域農業における情報化を考える―

開催日時＝平成六年三月一日～二日

開催場所＝札幌市・北農健保会館

演題と講師

「地域農業振興における情報化をどう捉えるか」
黒沢　不二男　氏

「農業の情報化戦略　―栗山町の事例―」
佐々木　禎　氏

「生産者から見た農業の情報化」
北野　亨　氏

▲　3月1日～2日　札幌市で開催した「農業の情報化戦略」研修会

各種研修会・研究会への講師、報告者の派遣

道内の各地域で開催された、各種の研修会・研究会などの講師、報告者の派遣要請にお応えしました。平成五年度は十六件の要請に対し、それぞれのテーマに合わせ協力研究者や当研究所研究員等が対応しました。